

2005年10月28日

欧州自動車用ガラスアッセンブリー事業会社を買収及び完全子会社化

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社(本社:東京、社長:門松正宏)は、フランス及びチェコの自動車用ガラスアッセンブリー事業会社2社を買収及び100%子会社化することを決定しました。これにより、欧州におけるお客様のアッセンブリーに対する様々な要求に応え、高品質の製品をより速やかに供給する体制が整うこととなります。

自動車用ガラスは現在、自動車にガラスを組み付けるために必要な樹脂やボルトの他、装飾部品等を事前に組み付けるアッセンブリーを行った形で自動車メーカーに納入されることが主流となっており、ガラスアッセンブリーは自動車用ガラス全体の売上の約20%を占めています。お客様の要求に応じた高品質のアッセンブリーを行い、タイムリーな納入を行うことは、ガラス自体の高機能化及び車のデザインに対応した難易度の高い成型加工を行うことと同様、今後の自動車用ガラスのビジネスにとって欠くことができません。

今般当社では、AGCオートモーティブ・ヨーロッパ社を通じて、ベルギーのレクティセル社が保有するフランスのウインキャップバレンシエンス社を買収し、また、レクティセル社との合弁会社であるチェコのアッセンブリー事業会社スプリレック社を完全子会社化します。これにより欧州のお客様に、より高品質の製品をタイムリーに供給することが可能となります。また、両子会社でアッセンブリーを行う自動車ガラスの売上は年間約110億円を見込んでいます。

旭硝子は、今後も自動車用ガラスのリーディングカンパニーとして、環境、快適性の他、さまざまな自動車ガラスへのニーズに答える、より高機能・高品質の製品を、スピーディーに供給することにより、自動車ガラス分野全体での事業拡大を目指します。

以 上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子(株)広報・IR室長 川上 真一
(担当：波多野 TEL:03-3218-5915、Email:info-pr@agc.co.jp)